

一九七七年一月二〇日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポラ幢ヶ谷九〇四 電話 03) 3377-4649

FAX 03) 3299-5367

振替 〇〇二〇〇一九一五八四三一 労金 中央労金本店 No. 1154163

購読料 月額 600円 6カ月前納制

## 〈もくじ〉

### ■巻頭言■

「苛斂誅求」の時代が始まった

大山 一新……………2

「怒り」と「心根」と

大田 構造……………3

―民間労組・地域ユニオン連絡会議全国集会から―

小泉人気はなぜ……………4

―大政翼賛政治と産業報国労働運動―

医療制度改革大綱批判……………5

現代労働運動における労働組合強化の課題……………6

「国労闘争団とともにたたかおう会」……………9

―その組織と性格について―

日本のワークシェアリングの道……………12

―オランダモデルと日本的ワークシェアリング(三)―

おもしろい本『背教者 ユリアヌス』……………16

足下のアフガニスタン……………17

俳句……………20

読者からのおたより……………19

# 旬刊 社会通信

NO. 823

二〇〇二年一月一日合併号

二〇〇二年一月一日発行

(毎月一日・二日・二三日三回発行)

## 「苛斂誅求」の時代が始まった

苛斂誅求（かれんちゆうきゆう）って言葉、あなたご存じ。ご存じないって、初めて聞く言葉ですって。辞書と相談してみても。「重い税金をとりたてられること」とあるでしょ。歴史的には江戸時代末期に徳川幕府、三百諸侯が真つ赤赤になった財政を建て直すため、米が貨幣だった時、お百姓から「六公四民」「七公三民」だと、ものすごい搾取をしたんだ。その様を表す言葉なんだよね。

現在、搾取の仕組みはすっかり変わったよね。直接生産物のただ取りから労働力売買への変化だよ。直接生産者が「ごまの油や百姓のように搾れば搾るほど出る」時代とは違って、搾取されていることが目に見えなくなったんだ。だから経済学が生まれたんだ。利潤の元はなにかって。資本主義社会が高度に発展したこの時代、「苛斂誅求」って言葉は死語になったかと思っていたら、そうじゃないんだよ。苛斂誅求が労働者、勤労者はもちろん高齢者や子ども達にも襲いかかっているんだ。

毎日の新聞には賃金五〜四〇%カット、ボーナスもが出てない日はないよね。それに首切りだ、希望退職・早期退職制度だと。日々の生活費は一挙に切り下げられるばかりか、首切り・解雇で賃金はゼロなんだ。これは死ねることでしょう。「労働力を買わない」ってことは、労働力を売り賃金でしか生計の手段をもたないのが労働者、つまり賃金生活者なんだもの。お百姓よりもつと悲惨だと思わない。だってお百姓の場合、土地や農機具といった生産手段はもっていたんだから。

生産手段もつてる小零細企業主、現代の農民はどうかしら。そこには規制緩和の嵐だ。街の商店街、そして田園地帯はどうなってる。「銀座通り」は廃村同様、田畑は草ぼうぼうじゃないかしら。こうして町や村まで殺されていくんだ。大企業の工場が次から次へと廃されているよね。そして、市町村合併の大嵐。NTTの営業所はなくされちゃった。鉄道は十五年前にズタズタにされ、駅はなくなり、駅はあっても駅員さんはいない。働く場がなくなっているよね。若者たち、そして首切られた労働者はどうなるの。

お年寄りだつてたいへんだよ。病院はなくなっちゃう。街の八百屋さん、魚屋さん、雑貨屋さんもおんなじだろ。どこに買い物に行けばいいの、病気になるつ時どうすりゃいいのしかも年金は切り下げられる一方なんだ。こんなお年寄りからも医療費をガボガボとろってんだろ。さらにマル優廃止ってんだ。現役には二割負担じゃもたないから三割負担っていうんだから。これって、やらざるぶつたり、苛斂誅求そのものじゃない。こんなこと許していたら、江戸時代にムシロ旗押し立てて代官に抗議したお百姓に笑われるんよ。

今はお金なくして暮らせない時代だろ。町や村には信用金庫、信用組合という金融機関があるよね。今どうなってる、バタバタと音をたててつぶれるんじゃないの。町や村に大銀行の支店あるかしら。地方銀行といわれる支店はどうかしら。ほとんどない。経済はどうなるのかしら。小泉君は郵便局を民営化すると馬鹿の一つ覚えのように云ってるよね。民営化したら郵便局もなくなっちゃうよ。

（大山 一新）

## 「怒り」と「心根」と

—民間労組・地域ユニオン連絡会議全国集会から—

民間労組・地域ユニオン連絡会議の第二回全国交流集会在、千葉で開催された。この集会是、昨年神戸で初めて開催され、民間労組・地域ユニオン運動を担う多くの仲間が全国から参加し、参加者全員が発言して、活発な議論に沸いた。

労働運動が総評解体後活気を失い、働く現場の声を聞かなくなって、資本・権力の攻撃に晒され、リストラ、首切り、一方的賃下げ、長時間労働の強要、福利厚生の著しい後退税金・医療費などの負担の増加と、労働者の命と権利は侵され続け、生活は危機的状況にある。この集会是、働く仲間たちが、人間として、「当たり前前の労働運動」の再生を目指して、集い、そして議論をした今はささやかな集会である。しかし、将来は：

「当たり前前の労働運動」を象徴しているのは、国鉄闘争であり、国労闘争団である。志は「国鉄闘争の勝利を目指し、闘争団の闘いを地域に拡げるために、地域ユニオン運動を積極的に担い、地区労働運動を再建しよう」というもの。今の状況から見れば、気宇壮大な夢のようだが、しかし、現在の連合の運動が、永遠に続くはずは決してない。

職場はパート、アルバイト、派遣、非常勤、嘱託などの非正規社（職）員で溢れ、正規社（職）員は全体の三分の一にし、年収五〇〇万円以上の労働者は不要と、資本・権力は考えており、賃金の高い中高年男子正社（職）員は、一部のエリート層を除いて解雇対象者になっている。これを補完する大労組幹部が一体となって、労働者への攻撃は、さらに強まるだろう。発表された失業率は五・四%を示した。さらに、若年無職者やフリーターなどの要素を加えれば、とうに一〇%を超える失業者の群れが街に溢れているだろう。

雇用を「守る」と、連合は言う。来春闘では「賃上げ要求はしない」「賃上げは一〇〇円」と、早々と物分かりの良さをアピールした。しかし、これは、雇用と引換えに、一方的な賃下げ強行を受入れ、無いに等しい、福利厚生の下げも受認しなければ、職場に残れない未組織・中小零細企業の現場労働者の実態からは、かけ離れ過ぎている。さらに、障害を持つ者へは、「非効率」のレッテルが容赦なく貼られ、職場から追放されている。やがてこの攻撃は、組織された労働者にも牙を剥くのは、想像に難くない。今や自殺者は後を絶たず、授業料が払えない子ども達が、教室から去っている。何という社会だろうか？

地域ユニオン運動は、八〇年代半ばに産声をあげた。地域の未組織労働者の声を聞き、支え、闘い、組織化して来た役割は大きかった。しかし、この地域ユニオン運動も危機に瀕している。財政難から来る連合加盟である。来年の全国ネット総会で決定される。

地域ユニオン運動の原点を思えば、連合加盟などあり得ないはずだが、と考えていたら、いやいや、何でもアリの今日なのだと思います。最も資本主義的な「金」が支配する世界なのだ。と。

だからこそ、活動資金難であっても、この運動は、この闘いは、必要とする働く仲間のために、続けなければならない。「怒り」と「心根」を金に換えてなるものか。これが、労働者魂なのだ。たとえ苔の一念と言われようとも。

（太田 耕造）

## 小泉 人 気 は な ぜ

### — 大政翼賛政治と産業報国労働運動 —

経済は不況色を強め街角に聞こえるのは悲鳴とため息ばかり。株価は一万円をウロウロし、ペイオフ解禁だと信組・信金は倒産ラッシュ、大金融機関も不良債権処理に追いつく間もない不良債権の発生、ゼネコン業界はといえば株価二〇〜三〇円の企業統出で、次の青木建設はどこ？ 当然、失業率はウナギ昇りで繁昌するのはハローワーク（職安）だけ。政治は腐敗、汚濁をきわめ、倫理も道徳もない輩が教育が悪い、教育改革だと口角を飛ばす。そして、戦争政策に突進する。

小泉君は失業、倒産の激増に「構造改革の成果のあらわれ」と平然と語り、臆するところは皆無。不思議なことにその小泉人気は衰えぬ。いぜん七〇%前後とある。世の中が逆様に立っているのではと思われこの異常現象はなにゆえか。

小泉君の商品は①自民党を変えます、②政治を変えます。そのまた目玉商品はといえば、今ではすっかり衰えてしまったダイエーではないが、郵政・特殊法人の民営化という国営企業の大安売りだ。どこがどう変わり、なにが残るのかは霧の中であることは、省庁再編、公務員制度改革とやらにすでに明らか。しかし、「抵抗勢力」対「改革（小泉）」の構図だけが喧伝され、世論をつくっている。いったい、なにが小泉君の人気を維持させているのだろうか。中曽根君の第二臨調時代（一九八〇年代）との対比はおもしろい。

まず、政治に対抗関係がなくなった。オール与党、つまり大政翼賛的政治状況にあることだ。最大野党党首が「小泉君万歳」の音頭をとるばかりか、「ガンバレ」と激励演説までやってしまう。小沢党、土井党はといえば参院で野党代表質問もできぬと、犬と猿のはずだけれど、結婚話まで聞こえてくる。「唯一の革新」を自称する共産党もテロ関連三法案に一部賛成。この背景に「対話と参加」の思惑がみえる。

次ぎに労働運動の状況で、これまた大政翼賛会的政治状況と符節を合わせ「産業報国会」体制にあることだ。ユニオン連合の主要組合はすでに二一世紀臨調で「国の基本政策」について、財界とテーブルを囲んでいる。行政改革、規制緩和政策、小泉改革に、「市場万能主義はダメ」との主張を前に押し出してはいる。しかし、その実態はといえばワークシエアリング、政労会談に明らかだが、何一つ抗議・抵抗しない。だから、事態はなし崩し的に進行させられる。ここでも対抗勢力が消えてしまっているのである。

さらにマスコミの援助と世論誘導である。マスコミは小泉を「改革」の旗手であるかのようにまず描く。そしてそれに反対する勢力を「抵抗派」として批判する。この手法は国労は「国賊」、さらに小選挙区制反対の議員を孤立させることに全力をあげたと同じである。さらにマスコミは小泉の「俗受け」する言葉だけをたれ流し、結論については論じることはない。こうして、小泉の提灯持ちの役割を果たすのだ。

政治をなんとかしたい、くらしを何とかしたいとの国民の切実な気持ちである。彼らの思いを実現する政党、労働組合は小さくされてしまった。したがって、彼らは小泉君の「旧来の自民党政政治家にない」スタイルに望みを託す。それに戦争熱と霧囲気が。

# 医療制度改革大綱批判

政府・与党社会保障改革協議会は二〇〇一年一月二十九日、「医療制度改革大綱」をとりまとめました。小泉内閣の「構造改革の基本方針」の具体化として、厚生労働省が九月二五日に「医療制度改革試案」を発表し、その試案をめぐって、各方面から意見・見解が出され、まさに議論百出の論議が重ねられ、政府・与党案としてこの大綱がまとめられました。しかし、その論議は、高齢化社会の進展による医療費の増加など、その増大する財政負担を政府が負担せず、どこに転嫁するかをめぐって議論してきたにすぎないといえます。

## 負担を患者・高齢者・勤労国民に押しつけるだけの「改革」

したがって、その政府・与党案の内容は「改革」どころか、患者・高齢者・勤労国民に負担を押しつけるだけの「改悪」と言わざるをえないものです。

その内容を具体的に点検すると、この政府・与党案では健保本人、家族入院の二割負担を三割に引き上げることや、ボーナスからも保険料を徴収し、政管健保・組合健保・共済組合など、すべての健保の保険料負担が増大するなど、給付の切り下げと負担の増加が際立っています。

そして、患者負担が過重なものとならないように、高額療養費として月額負担上限が決められている（従前は六万三六〇〇円）、それが一般七万二千円程度、高所得者一四万円程度に引き上げられることとなります。

高齢者医療については、老人保健法は七五歳からとし、当分の間は七〇歳〜七四歳も負担は一割とされていますが、外来の三〇〇〇円（中小病院）、五〇〇〇円（大病院）の月額上限や、定額制の日額八〇〇円（診療所）は廃止され、完全一割負担とされます。そして、高所得者の二割負担が導入されることとなっています。

さらに、高齢者医療の負担上限月額も、一般世帯三万七二〇〇円が四万二〇〇〇円に引き上げられ、高所得者は七万二三〇〇円とされてしまいます。

このように患者負担・保険料負担の増加や給付の引き下げという、国民に「猛烈な痛み」を押しつけるだけの小泉内閣の医療制度改革を何としてもストップさせなければなりません。

## 規制緩和で医療を営利の対象として資本に差し出す「改革」

この大綱には「改革」という文字が、数え切れないほど並んでいます。その改革の内容や方向について、注視しなければなりません。警戒しなければならぬ効率化、見直し、一元化などが提起されていますし、とりわけ規制緩和が数多く提起されています。

その方向は、六月二一日の小泉内閣の「構造改革の基本方針」をうけ、すでに、七月二四日には総合規制改革会議が「医療・福祉をはじめとする重点六項目の規制改革」をとりまとめます。

そのとりまとめの内容は、医療における規制改革として、制限や規制を緩和し、医療をサービス産業の一つと考え、民間活力の拡充、新たな雇用の創出など、経済活性化の原動力とするなどとして、医療機関への株式会社への参入、株式会社化などに端的に示される営

利医療が提起されているのです。

したがって、この大綱で示されている方向は、公費で措置すべき介護を介護保険で民間に『丸投げ』した手法の、その延長線上に、医療にかかわる様々な規制や制限を緩和し、「医療」そのものや、また「医療関連業務」を、民間企業の利潤追求の場に「営利の対象」として、差し出そうとしているのです。

社会保障の先進国といわれる国々において、様々な努力や工夫が積み上げられ、社会保障制度・医療保障制度がつくられてきました。わが国においても、それらに学びながら、国民皆保険制度を実現し、公的医療保険を充実させることによって、医療保障制度を確立してきました。

その医療保障の基本的な考え方は、「医療は人間の生命・健康に直接的に結びつくサービスであることから、基本的な医療サービスは、貧富の差に関係なく、一律・平等に提供されるべきものである。その基本原則から、医療を営利行為の対象とさせないために、規制や制限をくわえ、価格の公定化をはかり、公的扶助を行うことによって、実効あるものとする。」ということであり、この原則を踏まえ努力を重ねたことにより、世界最高水準の健康指標・平均寿命・保健医療、医療の質や平等性から世界第一位と評価される医療制度をつくりあげることができたのです。

### 小泉内閣の医療制度改革を阻止するために全力をあげよう

医療制度の「抜本的な改革」というかけ声とは裏腹に、この間、実際に進められてきたのは、高齢者医療に一部負担金と健保本人一割負担の導入、次は、その一部負担金の増大と二割負担の実施でした。そして、今回は、高齢者医療の負担増、老人保健法の七五歳と、すべての健保の三割負担と保険料負担増とが、二〇〇二年一月の通常国会に、法案や予算案として上程されようとしているのです。

倒産や失業、収入減で苦しんでいる勤労国民に「負担増を強いる」、大きな声を上げることでできない患者に「より強い痛みを押しつける」、乏しい年金で生活している高齢者の「受診抑制を狙う」、小泉内閣の医療制度改革を阻止するために、患者・高齢者・勤労国民とともに、全力でたたかいぬきます。

(原 義弘)

## 現代労働運動における労働組合強化の課題

嵐はたけり

波をうつ

あわだち いかり 棒立ちに

波は高く そそり立つ

その白い波の山は はげしくうねり

小舟はあがき

よじのぼり

たちまち落ちる

黒潮の大きな奈落の口へ

今の情勢は詩(うた)にたとえればこんなところだろうか。激しく狂い立つ波を打ち破らんと必死の抵抗がつづく。

おお 活動家たちよ

起(た)て 起て ふるい起て

トランペットを吹きならせ

いま なんじの心すべてを

愛すべき労働組合に注ぎ

羅針盤を ふるえる舟のたましいを

しっかりとみつめて前に進め

## 二つの「自己改革論」

労働組合の「自己改革・自己革新」が歴史の任務となつたかのようなのである。労働組合の存在感のなさが、ダラ幹どもにさえ「危機感」を感じさせるにいたつたのだ。ダラ幹たちの危機感己の保身。年収数千万円にもなる収入、政府・財界・官界で「いい顔」をした。だから総資本の下僕たることに労働者階級をとどめておきたい。それには今の労働組合では余りにも無力。せめて数だけでもふやさなくてはというのである。

組合員・活動家の思いは違う。あなた方は職場からあまりにも遠く離れ去ってしまった。現場感覚をすっかり失つてしまった。あなた方は、労働者・労働組合員とはもはやいえな、お辞めいただくほかはない。そのためにも労働組合の「自己改革・自己革新」はなにがなんでも必要と。

## あらためて「労働組合」とは—

労働組合の「自己革新」を考える最大の前提は「労働組合とは何か」、労働組合の機能と役割をあらためて議論することである。

労働組合の機能とはなにか。賃金をできるだけ切り下げることが、この資本家にとつても、さらに全体としての資本家階級にとつても利益であるということは、現代の日本の労働者のだれ一人として、あらためて教えられるまでもないことである。

賃金を切り下げることが資本家の利益であることを否定するのは、利潤をふやすことが資本家の利益ではないと言うのと、同じことになる。労働生産物は、一切の費用を差し引いてから労働者の賃金と資本家の利潤という二つの部分にわけられる。だから、賃金と名づけられる部分が減らないかぎり、利潤と名づけられる部分が増えるわけにはゆかないのである。

資本家はどうすれば賃金を切り下げることができるのか。それぞれの資本家は彼の労働者たちの賃金の切り下げによって、その利潤をふやすことができる。

一の資本家の利潤をふやしたという利益は、同一資本家同士の競争から激しい刺激を受ける。独占価格が形成されているとはいえず、どの資本家も彼の競争相手より安く売らなければならない。こうして賃金を犠牲にするつもりがないなら、賃金を切り下げようと試みなければならぬ。こうして賃金切り下げにくわえられる圧力は、資本家同士の競争の結果、幾十倍にも強められる。前には利潤が多いか少ないかの問題であつたものが、今ではぜひとも

やらなければならぬ問題となる。

このような事態―不測のやむまの圧迫にたいして、賃金（賃金率）を守る有効な機能が労働組合員はむろん労働組合を組織したくても組織できないでいる未組織労働者もよく知っているところであろう。しかし、賃金（賃金率）の維持という最大の機能すら労働組合は、「企業の存続なくしては労働組合は存続しえない」、「会社は赤字だ、赤字になるかもしれない、会社に支払い能力がない」、あるいはまた「雇用を守ることが大事」と放棄してしまった。これでは、労働組合の信頼は地に墜（お）ち、労働組合の存在感がすでに組合員である者はむろん、未組織の労働者すら、「組合は自分たちの生活を守ってくれない。組合専従者でクビ切られる者はいたためしがあったか」とそっぽをむいてしまうのは当然である。

労働者たちは労働組合をつくり、数少ないがゆえに、さらに不測の社会的交際と商売上の交際でつねに一階級として組織されてきた資本家階級に対抗し、「一日でも長く」たたかい、勝利するため「ストライキ（抵抗）基金」をつくってきた。労働組合が一つの社会勢力として発展するにつれ、「抵抗基金」は実に多様かつ広範に組織され、大組合ほどストライキはおこなわなくなったから、それらさまざま「基金」は、何百億、何千億ものばう大な額に達している。

今、資本に対する労働者の闘争がもつとも必要な時である。資本は賃金への攻撃を強めるばかりか、労働組合という団結体を否定してかかっているのであるから。

このような時に、労働組合は「ストライキ基金」を解除するばかりか、ばう大な基金を専従役員OBの「天下り」（生活保障）、裏金（その多くは政治資金である）、飲み食い費、横領、投機にと資本家以上にまなじりをかけて、悪の道に狂奔する姿が暴露された。賃金闘争すらたたかわない労働組合の姿がさらけ出されてしまったのである。

#### 労働組合は資本と賃労働の対立の産物

今、資本に対する労働者の闘争といった。資本の弁護論者どもがいくらこの事実を異論を唱えようと、この闘争は厳存している。賃金を切り下げることが利潤をたかめるもつともたしか、もつともてじかな手段である間は、いな、賃金制度そのものが存在する。こんな労働組合ではダメだと、労働組合への関心がいや増している現在こそ、この事実の充分な証明である。

資本の侵害に反対してたたかうためでないなら、いったい労働組合はなんのためにつくられるのか。問題を曖昧にしてもムダというものだ。現在の社会がだれの目にも明らかかなように相敵対する二大階級に―すなわち営利を至上目的とする資本の神官の役割を果たす「経営者・管理職」と言う資本家と、自分自身の労働力のほかに―一つもたない労働者―分裂しているという不快な事実である。

たしかに社会主義世界体制の崩壊はその裏返しとして「共産主義・学校」としての労働組合の機能と役割をも終焉させられてしまったかのように錯覚させる。現代社会で労働組合にとってかわるのはNPO、NGOだ。一連の国際会議反対運動でよく示されたではないかと。

NPO、NGOの活動は資本主義的生産システムの矛盾が「入口」から「出口」にまで大きく拡がったことを告げるものである。環境、グローバルイズムの矛盾はだれの目にも見

える。だから、「出口」の矛盾は現象として目に見えあらわれるから、単純だ。しかし、「入口」の矛盾、搾取は目に見えない。目に見えないから、かんたんに「ごまかされ、洗脳され、買収される。目に見えぬ「賃金制度」に労働者独自の要求を揚げ抗議、抵抗するのが労働組合の任務である。しかし、この姿は前号『労働組合の民主化に全力を』にあるように、すっぱり抜け落ち、労働組合の「自己改革・自己革新」という名目のもとに、さらに二大階級間の「共通の利益」を求める傾向を強めている。

### 労働組合強化の課題

このような時、労働組合強化の本当の姿はいかなるものであろうか。

二つの面からの追求が必要のように思われる。第一は理論面で、とりわけ強調されなければならぬのは賃金論、組織論、赤字論への対処である。第二は実態面で、ここでの焦点は春闘改革、腐敗、官僚主義、そしてこれらを包含する不正主義が「正義」としてまかりとおる機関決定のあり方である。労働組合の真の自己改革を求める労働組合員・活動家の任務は、自らのおかれた条件、環境のなかで、具体的に労働組合強化の課題を突き出すことである。労働現場では今指摘した労働組合を犯す「ガン細胞」照射の方向をもさくしはじめている。「死ぬな、辞めるな、あきらめるな」、そして「たたかおう」との呼びかけが開始され、たたかいを横にひろげ、労働組合のあり方と資本の専制を告発する塊がさまざまなかたちでつくられていることである。

これらのたたかいを大きくすること、さらに横に広げること、全労働者との連携を強め、生き生きとした運動と組織をつくることである。

(伊勢 太郎)

## 「国労闘争団とともにたたかおう会」

—その組織と性格について—

国労大会から三ヶ月。国労に新たな動きが始まった。四党合意にもとづく解決が「袋小路」に入り、将来展望を失ったからであろう、国労長野地本出身の前中執が国労を脱退し新組合結成へと走った。国労本部は四党合意にもとづく解決を妨害しているのは闘う国労闘争団、彼らを支援する組織との批判を強めている。何が起きても不思議でない状況である。

「国労闘争団とともにたたかおう会」(略称・「たたかおう会」) 結成は十月五日。それ以降、「たたかおう会」と連携する諸組織の活動は活発化し、全国で「国労闘争団とともにたたかおう」、「国鉄闘争を風化させてなるものか」、「彼らと連帯し反失業・反リストラの共同闘争を強めよう」と、今、さまざまな努力が続けられている。国鉄闘争と連携・連帯し、共闘する「たたかおう会」の組織と性格はいかなるものか。国鉄闘争強化が緊急の課題となっている時だけに、「たたかおう会」の参考資料を紹介し、国鉄闘争前進の糧としたい。

(編集部)

### 「たたかおう会」へのさまざまな意見

「国労闘争団とともにたたかおう会」(略称・「たたかおう会」)が十月五日に結成されてからさまざまな意見が寄せられています。

1、どういったたたかい、活動をおこない、いつまでたたかおうのか。

2、国鉄闘争の風化がはげしいなか、新しい運動体、しかも財政支援を目的とする組織の発展は容易じゃない。地域・職場から運動をつくる組織としての位置づけが必要。「上から」だけでは不十分。

3、私の地区では「闘争団と〇〇地区をつなぐ会」の活動を今日まで展開している。国労闘争団からの「守る会」結成の要請を受け、毎月十萬円の資金拠出を十三万円にふやし、目下三〇口ふやすために拡大運動中。既存の組織を生かし両方ともとりくんでいる。

4、わが地域にも「国鉄闘争を支援する〇〇地区の会」がある。「たたかう会」結成でこれまでの会はどうなるのか。

5、これからの国鉄闘争をめぐる「共闘」、全体の支援体制はどうなっていくのか。また、国労闘争団・国労闘争団共闘会議（準）との関係はどうなるのか。

6、さまざまなカンパ、たとえば一億円カンパ、連帯する会、地域・職場での個人カンパでやりくりがたいへん。さらに「たたかう会」会費ということになれば率直に言っていたいへん。整理が必要。

7、これまでの組織は物販中心に機関決定で参加してもらっていた。したがって、すぐに自主的な組織をつくることは困難。

8、すでに他のグループと「支援する会」を立ち上げた。しかし、大きくひろげる体制づくりには不十分。さらに大きく立ち上げたいと相談している。

9、情報提供のシステムはどう考えているのか。

10、既存の組織、とりわけ「連帯する会」との関係はどうするのか。

というものです。昨年五月三〇日の「四党合意」以来、論議はすっかり内向きになり、国鉄闘争に共闘・連帯する運動は、一部の地域を除き「開店休業」の状況になりました。その中で国労闘争団のオルグと物販活動が継続されてきた状況です。ですから、これからどう国鉄闘争を再構築していくか、なかなか展望を見出せず悩んでいるのが実態です。

### 「たたかう会」の組織と性格

「たたかう会」の目的についてです。

結成趣意書に、こう記しました。

「闘う国労闘争団、国労闘争団共闘会議（準）の呼びかけを支持し、国労闘争団が望む国鉄闘争の解決にむけたたたかいに支援・共闘すると同時に、リストラ・首切りに抗し労働者の人権がなによりも大切にされる社会をめざす」

具体的には「結成宣言」に、以下のように述べているとおりです。

「国労の仲間から、国鉄分割民営化の教訓を学び、その教訓を働く仲間すべてにひろげ、危機にある日本労働運動を再建しよう」

その問題意識は、当面、国鉄闘争の再構築を軸に資本の専制支配とたたかう労働組合をめざし、地域・職場から労働運動再建をはかりたい。したがって、地域・職場からの組織づくりを全力をつくしたいことです。

二つは、なぜ「たたかう会」を結成しなければならないのかについてです。

第一に、労働組合ナショナルセンターの違いをこえ、多くの労働者・労働組合が「連帯する会」「中央共闘会議」、「デル基金」、「支援する会」といった自主的組織をつくり、過去十五年余たたかいつづけてきたことです。この運動を「四党合意」でなくしてしまうわけにはいきません。

第二に、国鉄闘争になんとしても連帯・共闘したいとする熱い想いのもと、全国各地で

労働運動の再建をも視野に入れた「支援共闘」再構築のもさくがつづけられていることである。

第三に、客観的にも国鉄闘争再構築が求められていることです。財界・政府は「特殊法人民営化は国鉄清算事業団方式で」、「国鉄民営化の手法こそ経営者にとつての普遍的なりーダーシップの見本」と、国鉄改革方式による合理化をさらに強行しようとしています。ちなみに、今年四月に成立した商法改正で会社分割の手法がすでに九〇もの大企業で実施されています。

三つは、「たたかう会」の性格についてです。

「たたかう会」は国労闘争団の「守る会」をつくつてとの呼びかけに応えつくられました。国労闘争団への財政支援は重要な目的の一環です。「守る会」を全国に三〇〇ヶ所つくるためには、国鉄闘争再構築が日本労働運動の未来に必要不可欠、もう一度がんばってみようという気迫と労働運動強化への確信が必要です。このため、運動に全力をつくし職場・地域で学習・交流を深めるなかで組織づくりに全力をつくします。

四つは、「たたかう会」と国労闘争団・国労闘争団共闘会議（準）との関係についてです。

二つの組織と違った組織と運動をしようというわけではありません。司令塔は国労闘争団と共闘会議（準）です。「たたかう会」はこれら二つの組織に自主的に連帯する組織で、彼らと有機的に連帯し国鉄闘争再構築をめざします。したがって、名称については中央段階では「たたかう会」と名づけましたが、各県・地域・職場における組織は、これまでの運動の経過、わかりやすい運動のために「守る会」「支援する会」、「たたかう会」等々、創意と工夫をつくすことが求められます。

五つは、中央「たたかう会」と県・地域「たたかう会」、「守る会」、「支援する会」との関係についてです。中央「たたかう会」は県・地域の組織結成のために情報の提供、学習・交流会等での講師派遣に努力します。会費は団体一万円／年間、個人四〇〇〇円／年間と定めていますが、これは目安です。県・地域の状況に応じて決めていただく必要があります。

なお会費については中央「たたかう会」は直結会員・団体の会費と随時カンパでまかない、運動の前進度合いを考えながら県「たたかう会」（名称はさまざまになります）から、分担金（郵送費、オルグ費）をいただければと考えています。

六つは、国労闘争団への財政支援のあり方についてです。

会則では「会費の一定額を『闘う闘争団』に支出します」とあります。各県・地域の組織化状況に応じ、中央「たたかう会」とは関係なく、国労闘争団に支出していただきます。この場合、財政支援をどうおこなったかの報告だけは忘れず中央「たたかう会」に報告いただきたいと考えています。

七つは、「連帯する会」「中央共闘会議」等既存の諸組織との関係についてです。

「中央共闘会議」「連帯する会」は国労本部和連帯し活動を行っていました。しかし、「四

党合意」以降、国労本部への集中性は弱くなっています。中央共闘ではこの一年間、総会がおこなわれておりませんし、連帯する会では会員が激減していると報告されています。とりわけ、論議となり交通整理が必要なのは「連帯する会」との関係です。「たたかう会」「守る会」「支援する会」の会員予定者の多くは連帯する会の会員でもあるからです。

「連帯する会」会員の仲間に積極的に加入を働きかけてください。「連帯する会」として地域で活動しているところ、そして新しくつくられたり、再発足するところでは一人も脱落者を出さないようにすることが必要です。

八つは、国鉄闘争がこれからのようにたたかわれていくかについてです。

国労闘争団は全国各地で「守る会」結成をよびかけるオルグを展開しています。国労闘争団共闘会議は五月三〇日、「準備会」として発足しました。そして今、国鉄闘争の全国司令部としての役割を担うべく、正式な「共闘会議」への準備が重ねられています。

今回の国労大会の特徴から判断しても、正式な「共闘会議」結成は必至の情勢となっています。国労闘争団・共闘会議（準）は十一月二五日から二六日の二日間、国鉄闘争についてのシンポジウムを湯河原で予定しています。ここで、これからの運動のあり方について検討がすすめられることとなります。

最後にいつまでたたかうかについてです。

国労闘争団が納得のできる解決の日までということになりますが、当面、二年間を射程におき全力をつくします。これは本体の「対案」が「二〇〇三年四月一日にJR復帰をめざす」としているからで、我々もまた、そこをめざし力をつくすということです。

「たたかう会」にご参加を！ 組織と運動をつくって！

国鉄闘争再構築、そして「納得いく解決」を求めるたたかいはけっして平坦ではありません。しかし、十五年余のたたかいをムダにしないためにも全力をあげることを歴史が私たちに求めています。

「たたかう会」はその一環としての任務を担うことを宣明し発足しました。「生き生きした運動で生き生きした組織をつくる」合言葉に、全国の仲間がともに力を合わせてくださることを心から呼びかけます。

## 日本のワークシェアリングの道

—オランダモデルと日本的ワークシェアリング(三)—

### 低い高齢者の就労率

オランダモデルでもっとも強調されるのが、失業率が下がったことです。なぜ失業率が下がったのかを考える前に、オランダの雇用形態、雇用情勢について分析します。

まず労働者構成についてです。労働力人口は七百万人で、労働参加率は六四%です。雇用形態はフルタイム労働者五八%、パート労働者四二%で、失業率は三・八%です。

ヨーロッパ諸国において一九八〇年代以降の大きな特徴は五〇歳以上の高齢者を「若者

に仕事を」と、日本でもお馴染みの早期退職優遇制度で、リタイアーさせたことです。

日本の早期退職優遇制度の多くは政府の助成金より、企業が特別退職金という割増金を支払い「やめさせる」手法ですが、ヨーロッパのそれは社会保障、失業保障制度を充実させるというものです。ですから、ヨーロッパ諸国では高齢者の就労率が高いへん低いという特徴があります。

まず五〇〜六四歳の就労率についてです。EU諸国の平均は四八・六%、オランダでは五〇%です。ちなみに日本では八〇%台後半ですから、ぜんぜん比較になりません。

さらに五五〜六四歳の就労率をみてみますと、一九八〇年に六〇・九%とありましたが、一九九六年には三二・三%へと、約半減しています。いかに高齢者がリタイアーしていったか、一目瞭然です。ちなみに日本におけるこの年齢層の同じ時系列における就労率は八二・二%から八〇・六%への微減にすぎません。

五〇歳以上の高齢労働者が失業とともに厚い失業保障対策で、大量に労働力人口から外れたわけです。したがって、分母、分子とも減少したことによって、失業統計は低く出る傾向が強まります。

### 営業時間の延長

ここにも一つの失業が減った原因を見ることができのですが、オランダにおける失業率の減少は経済の成長と小売・卸売業等サービス業全体の営業時間の延長、さらにはヨーロッパの経済統合の進展とユーロ圏結成とオランダの地理的位置があります。

オランダの経済成長率は年間平均で四・〇〜四・五%、インフレ率は四・九%です。オランダとしてはかつてない高成長が続いたことになりました。その中で特徴的なことは商店の営業時間が平均で一八時間店から二一時間店へと三時間も延長されたこと、それに休日はお休みだったのが開店日になったこともありです。すさまじく総労働時間がふえたのです。これによって、新しい仕事を作り出されたであろうことが想像できます。

さらに「雇用をふやす」のに大きな役割を果たしたと思われるのが、EUユーロ圏結成におけるオランダの地勢です。

ヨーロッパの地図を眺めてみてください。ベネルクス三ヶ国（オランダ、ベルギー、ルクセンブルク）は東はドイツ、南はフランスと国境を接し、ドーバー海峡をはさんでイギリスと向かい合っています。つまり、地理的にヨーロッパの交通の要衝、運輸センターにあることです。そのためこの十数年来、オランダの海空の港はいわゆるハブ空港として全面的に再建され、道路網はかつてのローマではありませんが「すべての道はオランダに通ずる」ことになりました。こうして、オランダに人、モノ、カネが集まるようになったのです。

### 観光客は十年で三倍に

まず人、観光客のすさまじいばかりの増加です。九〇年にはオランダへの観光客は三九〇万でした。それが九九年には九九〇万人二〇〇〇年には一千万人を超えました。このため観光業は熱気を呈し、ホテル稼働率は九〇%をこえるすさまじさです。ここでも多くの職がつけられたに違いありません。ちなみに二〇〇〇年度の日本への入国者は四八〇万人ですから、オランダのものすごさがよくわかるというものです。

人の流れはモノとカネの流れを加速せずにはおきません。EUの運輸センターのオランダに本社機能が集中していきます。日本の企業はフランスに五二一社、一万七千名、ドイツに八二四社、二万名、イギリスに八五九社、四万八千名を送り出しています。そしてヨーロッパ本社を二六五のイギリスは別にしてオランダに二五、ベルギーに二六もおいています。ドイツ、フランスはそれぞれ二と四にすぎません。

人、モノ、カネが集まることで、新しいビジネスが活気づきました。九二年には二万五〇〇〇人、九九年前後にはなんと六万人が事業を起こしたとの報告があります。ようするに、経済構造のサービシ化です。イギリスの状態もオランダと似たりよったりです。金融のグローバル化は英語が世界語として世界の金融センター、ロンドンシティをさらに大きなものとなりました。これには英語が世界語として世界のすみずみにまで行き渡ったことがあります。さらに、イギリスは雇用を拡大するため外国企業に税、労働法制で特別の配慮をおこなったことです。この結果、イギリスにはイギリス資本による製造業はほとんどなくなってしまうました。

### 均等待遇、残業なし

ワークシェアリングを考える時、もつとも重要なことは、日本とオランダをはじめとするEUの労資関係に大きな違いがあることです。ユニオン連合が明らかにした「ワークシェアリングの検討に向けた課題整理（素案）」でも①時間給概念、②職務給概念、③均等待遇原則の確立が、検討の課題とされています。

強調されなければならない第一点は、労働者に差別はないことです。つまり、均等待遇であることです。男と女という性による差別、フルタイム労働者とパート労働者との間の差別は、賃金、社会保障等の面において基本的に同等だということです。ですから、オランダでは「フルタイムを選ぶかパートタイムを選ぶかは労働者の権利」といわれるのです。第二点は、残業はなく、サービシ残業・フロシキ残業なんていう概念は存在しないことです。職場で年二〇日にも満たない有給休暇が日本でどれだけ取得されているのでしょうか。職場から聞こえてくる声は「年休がとれない」、「買い上げてもらった」、「必要なとき休めない」。消化率は五〇％にすぎません。

第三点は、労働協約の適用範囲です。日本では企業との間の労働協約が中心で、たとえ産業別の労働協約が結ばれていたとしても、その適用範囲はきわめて狭く限られています。組合員以外にはまったく適用されません。しかし、ヨーロッパ諸国では産業別の協約が中心で、その協約に示された労働諸条件は組合員はむろん組合に入っていない労働者のほとんどに適用されます。これは大企業、中小企業という企業の大小を問いません。ですから、大企業労働者と中小企業労働者との間の差別もない、となります。

第四点は、いわゆる幹部職員と労働者には「おれたちとおまえたち」といわれたようにはつきりとして区別があることです。日本でいえば最近はやりの総合職と一般職との区別ということになるのでしょうか。労働組合の構成員は労働者で、幹部職員は「職員組合」という別の組合をつくっていることで、日本のようにエリート社員と現場労働者が一つの組合に同居することはないことです。

さらにもう一点加えれば、日本とヨーロッパの争議形態の違いです。日本ではストライキは多くタテの指令・指示でおこなわれます。しかし、欧米の労働運動ではストライキは

地域そして産業別の横の連帯でたたかわれることです。よくヨーロッパの労働運動と日本の労働運動の違いがいわれますが、「地域から」というたたかいは伝統にあるということですが、それがよく示されているのが前に述べた労働協約の適用範囲です。

連合は前にふれた「素案」で、ワークシェアリングについての労資共通認識として、「労使あるいは政労使の社会的合意を通じ、労働時間の短縮や仕事の分かち合いを通じて雇用の維持・拡大（失業の減少）を図る施策」と定義づけています。しかし、今の労資の力関係、連合の路線を考えた時、日本におけるワークシェアリングの実施は資本の搾取率を一方向的に強める方向で決定されていくだろうことは必至といわなければなりません。

### 増大する不安定雇用

オランダでは一九八二年の「ワッセマー合意」により、フルタイム労働からパートタイム労働への急激な転換がおこりました。フルタイムとパートの間は完全に均等待遇です。しかし、実際の雇用状況はどうなっているのでしょうか。

第一の特徴は臨時雇用・有期契約労働者が一九八〇年代後半から猛烈にふえていることです。一九八七年に四万四〇〇〇人（七・九％）だったこの雇用形態は一九九七年には七三万二〇〇〇人、全労働者に占める比率が一・七％にまで高まっています。

第二は派遣労働者も同じ勢いでふえつつづけていることです。一九八七年八万四〇〇〇人だったのが、一九九六年には一四万六〇〇〇人といったようになります。

この結果、オランダでは「不安定」雇用の典型である臨時・有期・派遣労働者が全就業労働者のじつに約一三％にまで高まっているのです。

第三は各産業界におけるパート労働の比率についてです。全体では三七・九％がパート労働者で、女性では六七・八％、男性では一六・七％との数字があることを前提にみてみます。

もともとパート労働の比率が高いのは医療・サービスの分野で六三％、ついで金融の四二％、以下商業三七％、農業二三％、運輸二〇％とつづき、工業一一％、建設では四％にすぎません。この数年間、パート労働におきかえられているのが公務労働の分野で二〇％にも達します。そして今、業務への責任感等に「問題あり」と種々の弊害が出始めていることが指摘されています。

### オランダモデルも空騒ぎ

オランダモデルの矛盾が顕在化しようとしている時、日本では「やれオランダモデルだ。フランス、ドイツだ」とのまたぞろの猿真似が始まろうとしています。これまでくわしく見てきたように、オランダ、イギリス、アメリカの失業率の減少は①急速な経済拡大、②規制緩和による営業時間の延長等による総労働時間の絶対的増加、③ITバブルによる個人起業家の拡大、④オランダにおいてはEUの「ユーロ圏」化にともなう交通網の整備、それにともなう観光客の激増があったことです。

アメリカを先頭する経済のマネー化、投機経済が一九二〇年に匹敵するような狂乱景気をつくり出したのです。このブームも破裂してしまいました。今、イギリスに投資された企業群はより安い投資コスト先を求め東欧諸国、中国へとまるで羽がはえたように飛んでいます。失業増の時代が再びやってきたのです。

こんな時に「オランダモデル」の騒ぎです。これは空騒ぎに終わります。数年前、金融自由化だ、ビッグバンドだと大騒ぎしたことがありました。わずか二、三年前には四〇一Kだと。これと同じことがまたくり返されようとしているのです。なぜなら、日本の不況はまだしばらく続き、経済活動は低下します。起業の環境にはありません、総労働時間をふやして「仕事」をつくろうにも、日本の卸し・小売業はすでに二四時間体制、百貨店やスーパーでは正月休みも返上して年三六五日営業体制ですから、すでにふえようもありません。

もし日本でワークシェアリングをおこなうとするなら、残業を減らす、サービス残業を減らす。これを均等待遇化の運動に結びつけることです。そしてその分新しい労働者を生み出すこと。さらに、これまでの公共投資を見直して、福祉・医療、山野の整備、教育現場、安全の確保に大量の人を動員することが求められるのです。（編集部）

## おもしろい本『背教者』ユリアヌス』

偶然、おもしろい本に出会った。事務所の近くの古本屋で『背教者ユリアヌス』（中央公論社文庫、全三巻）、著者は辻邦生。その名は知っていた。しかし、これまで一度も彼の小説は読んだことはなかった。なぜ買う気になったかの理由はきわめて単純で、何か「背教者」にひかれたからだ。レーニンの『背教者カウツキー』が沈潜していたのかもしれない。

ユリアヌスという名からローマ帝国時代を描いたものとも想像した。『今昔物語』、それと関連する芥川の『鼻』などを紐解いていたが、枕元であるいは乗り物の中で目にする読み物がなくなった。二三日して、内容やいかんと読み始めた。冒頭の文―

「濃い霧は海から這いあがっていた。  
もちろん海も見えなければ、陸も見えなかった。ただ夜明け前の風に送られて、足早に動いている白い団塊が、どことはつきり定めがたい空間を、ひたすら流れつづけている感じがただけだった」

に、なぜか身が震え、この小説への期待が夏空にわきあがる入道雲のようにふくらんだ。読み進むほどに心は躍った。ユリアヌスは哲人政治家、数奇な運命にもてあそばされ、ローマ皇帝となる。皇帝時代はごく短く、ペルシヤ遠征で戦死する人物だが、彼は戦場にプラトンやギリシヤの古典を携え、寝る間も惜しみ耽読する。そして、ギリシヤ時代の哲人たちの正義実現に全力をふるう。

時あたかも、ガリア人のキリスト教がローマ国教として認められた時。権力に取りいらんと権謀術数の限りをつくす大司教たち、そして素足で清貧を重んじ貧民に飛び込んでいくヒラの牧師たち。その中で、ローマの神々の正義と真理を実現しようと、兵士・庶民に訴えるユリアヌス。

正義とは、国家とは、弁証法、理想と夢の実現の方途とはをいろいろに考えさせてくれる本である。三冊でなんと三百円。三万円にも値するそうした読後感に、今も心がふるえている。

（滝野記）

## 足下のアフガニスタン

アフガニスタンをめぐる情勢が混沌としている。アフガニスタンの圧倒的な地域を統治していたタリバンが、アメリカを中心とする空爆を背景にした北部同盟や、親米として組織された部族勢力にカンダハルまで押し詰められている。その一方、反タリバンで統一行動をしていたはずの北部同盟の中で銃撃戦を含んだ内紛が起きていることも報じられた。

現地に記者を派遣してのマスコミからさえ、正確な情報が、日々には得られないほど混沌とした状況である。こういう状況下だが、情勢が急展開しているから、わたしたちもマスコミに躍らされることなく、これが何かを見極め、仲間の中で討論を起こし、行動につなげていかなければならない。

**ねらいは最初からタリバン一掃** アメリカの空爆は、最初からタリバン軍に焦点が絞られていた。その謳い文句は「世界貿易センタービル等を襲撃したテロ組織アルカイダの指導者オサマ・ビンラディン氏をかくまっているのがタリバンである。軍事行動によってタリバンを崩壊させ、アルカイダを壊滅に追い込んで、その中心指導者オサマ・ビンラディン氏を逮捕・拘束する……」というものであった。しかし、それが真の目的であれば、タリバン指導部が「世界貿易センタービルを襲撃したテロの指導者がオサマ・ビンラディン氏である」という確たる証拠が示されれば、ビンラディン氏的身柄を、国連の機関に引き渡す用意がある」と声明を発した時、そのようにしたはずであった。

しかし、示された「証拠」と称されるものは、とうてい、貿易センタービル襲撃とビンラディン氏の関係をつなげ得るようなものではなかった。にもかかわらず、アメリカは、アフガン空爆を強化するばかりであった。アメリカが確たる重要な証拠の一つとした「犯人が車の中に残したアラビア語の飛行機操縦マニュアル」が、専門家の調べによって「アラビア語に通じている者の使用する言葉でないものが使われている」ことが明かにされても、空爆は、継続的に強化されるばかりであった。

**人は虫けら同然** アメリカからによるアフガン空爆は、アラブ人が何千人死のうが、何百万人の民が難民となって飢餓に苦しもうが意に介さずという無差別爆撃であった。

歴史的に北の隅に追いやられていた北部同盟に、経済的・軍事的に全面的な支援を与え、さらに、圧倒的な空爆をもってその進軍を全面支援し、その一方で、反タリバンの部族の長らを決起させていった、その焦点が、タリバン政権の崩壊を目指すことに絞られていたことは、ここまでの推移を振り返れば、もう明かになったことである。

目的のためには手段を選ばず、という言葉があるが、アメリカからの蛮行は、アラブ人全体の暮らしや命のことなど虫ケラのもと同然に思わなければできない所業だったのだと歴史は刻むだろう。

**歴史をたどればアラブの団結阻止** 現代は「まだ」石油文明である。世界の原油庫はアラブ諸国にある。第二次世界大戦で、資本主義的戦勝国の頭目となったアメリカは、台頭してきた社会主義に対して、これらを押し潰すべく世界の至るところで戦争政策を繰り返して

てきた。朝鮮半島で、ベトナムで、キューバで：チリやアンゴラ等を含めれば枚挙に暇がないほどである。世界最大の石油産地であるアラブ諸国に対する覇権政策も、これらと並行して強力に推し進められた。まずは、一九四八年五月一日のイスラエル建国である。紀元前史のことはさておくとして、一九四七年にイギリスが委任統治を放棄してから、イスラエル建国に至るまでの間と、その後、今日に至るまで、一貫してイスラエルを軍事的・経済的に支えてきた中心的国家はアメリカであった。イスラエルの建国によって生じたのが、パレスチナ問題であることは言うまでもない。

第一次世界大戦のみに、イギリスがユダヤ人に（戦争協力させるために）イスラエル建国を約していたことは、ここでは大きな要素とはならない。イスラエルに突入したイラク・ヨルダン・エジプト等の対周辺アラブ諸国軍戦で、イスラエルの後押しをし、真つ先に国連加盟承認をしたのはアメリカだったのである。

その後、イスラエルと言えばパレスチナ問題がイメージされる歴史をたどるが、イスラエルが、アメリカやヨーロッパ先進資本主義諸国に対して、アラブ地域での利益擁護のために果たしてきた役割は決して小さくなかった。それは、エジプトのスエズ運河国有化の動きに端を発した、イスラエルのエジプト侵略に象徴される（一九五六年一〇月）。

アラブ諸国は、政変を繰り返すが、その背後には、石油の利権に群がるアメリカや、ヨーロッパ（日本も含む）資本主義先進諸国の影が絶えず落ちていた。少し記憶に薄いが、イラン革命が当時の背景事情を雄弁に語っている。「一九七二年末の石油危機以降、有力な産油国イランの石油収入は急激に増加し、工業化プロジェクトの予算は倍増修正された。」

アメリカと西側工業国はオイルダラー還流のために、イランの石油収入を食い物にしようとした。これはイラン側から見ると、経済の西側依存を強めることだった（ブリタニカ百科）。「こうした背景による混乱が、反米のホメイニ政権を誕生させたのである（一九七八〜八一年）。その後すぐにイラン・イラク戦争が勃発するのであるが、イラクの背後にアメリカの影が見え隠れしていたことは否めない。」

**争わせて支配する中東政策** イラクの石油をクウェートが盗掘しているという問題に端を発したこの争いに、アメリカは全面介入してイラクを軍事攻撃した。このように、戦後のアメリカの中東政策は、一貫して「争わせて支配する」というものである。

国際貿易センタービル襲撃事件の、指導者とされているビンラディン氏は、アフガンにおける対ソ戦においてアメリカが養成したテロリストだということは、今は誰もが知っていることである。アメリカは、厚顔にも、この歴史を一顧だにせず、テロを悪と呼び自らを正義と名乗っているが、戦争こそが最大最悪のテロである。世界貿易センタービル襲撃も、パレスチナの人民がイスラエルに対して行っているテロも、自らの命を投げ出している自爆テロである。宗教的な要素はあろうが、そればかりでは決していない。なぜなら、自爆テロが前面に出てきたのは、極めて近年のことだからである。アラブ諸国の民を、ここまで追い詰めたものは何か、それは誰か、今、真剣に考える時である。

**足元のアフガニスタン** いま、ポストタリバン後の新政権作りが模索されている。アフガニスタン内の民族対立が表面化しなければ、国連主導の傀儡政権の誕生となる可能性もあ

る。中東は産油地域であるから、この諸国では、早くから今に言う「グローバリズム」の影響・支配下にあった。それが何をもちたかは、前述のとおりである。今は、そのグローバリズムが世界を飲み込もうとしている。国際化した資本は国籍を脱ぎ捨てて、ひたすら金儲けに邁進するのみとなる。その資本を生み出した国の利益や国民的利益のことは、金儲けの足かせとなれば切り捨てるばかりか、握り潰すのが、グローバリズムである。日本の、史上空前の高失業も、毎年三万人を超えた自殺も、グローバリズムによる産業空洞化（国民の棄民化）と、決して無縁ではないのだ。

アメリカの動きに呼応した日本やヨーロッパ軍団の動向は、グローバリゼーションに抗う者への連合軍形成に見えた。

（芝 久己）

## ◇ 読者からのおたより ◇

俳句、そして新年 俳句の記事よろしいですね。よき新年をお迎え下さい。ご健闘を。（加古川・N）

編集部より Nさんも句寄せて。俳句への関心の大きいのに驚かされています。

今年こそ！ 昨年は、参院選挙に出馬するなど、大変な年でした。しかし、多くの方が県内各地で応援して下さいました。御社「通信」大変役立ちました。データ等も今後掲載していただくと助かります。今年こそは、お互いに良い年でありませうよう頑張らましよう。

（熊本・I）

編集部より データを載せるとページ数が2〜3倍にふえてしまうのです。必要なデータをお知らせ下さい。お送りします。

少しの灯も前進の力へ！ きびしい時です。少しのあかりも大切に、前進する力にしていましょう。誌代送ります。

（京都・S）

編集部より 変化はあらわれています。楽しい時代の始まりとの視点が必要です。この2〜3年で時代は変わります。私も五六歳、これまでの人生を集大成する年にしたい。

自然相手に 資料ありがとうございます。組織を離れて三年、総てを自分の判断でこなしております。相手は自然と建材なので気軽にばちばちと仕事しております。

（東京・M）

編集部より 自然を相手に、Mさんの仕事ぶり、目に見えるようです。そろそろ自然の中に社会も入れていただけませんか。やらなければならんこと多すぎて。Mさんがご参加くだされば千人力。みんな心待ちにしているんですけど。

若者も参加 市民運動の方達と手を取り合い、平和のたたかいを進めています。月一回の学習会、若い大学生も少しずつ参加しています。

（えひめ・T）

編集部より どんな学習会をなさっていらつしやいますか。若者たちの反応はいかがですか。メロ程度でかまいません。続編のおたより心から待っています。

韓国・国鉄民営化反対でストライキへ 韓国の仲間から韓国国鉄民営化反対ストライキについての緊急支援要請が届きました。韓国では国鉄民営化法案が国会上程され、国鉄労組側が全面ストライキをかまえています。五四年間におよぶ御用労組支配を打ち破り、今年五月に史上初の組合員直接選挙で民主候補が誕生した鉄道労組は当初から「民主労組建設」「鉄道民営化阻止」を掲げてきました。この鉄道労組に連帯して公共部門労働組合が連帯ストライキを計画するなど、韓国労働運動はひじょうに緊迫した情勢。

（しが・N）

編集部より ストライキ闘争のピークは十二月中旬でした。新聞はほとんど報道していません。くわしくはまた連絡します。

なかまから元気もろう 広島はすごい。攻撃がすごいのに、なぜ元気なんだ。「日の丸」「君が代」で闘っている。闘いの中で、仲間が見える。闘いの中で、組合の大事さがわかる。闘いの中で、働く者が大事にされる社会が見えてくる。広島には運動がある。たしかな運動がある。仲間の力は大きい。一人だけじゃないというところが本場にすごいのだ。知らず知らず職場の中で、育っている。知らず知らず仲間から元気をもらっている。

（奈良・T）

編集部より 広島運動が目に見えるよう。こんな運動、全国につくろうよ。あなたのところから

もあるんじゃない。報告寄せてよ。

元気に回復しています 昨年はKの容態を聞いてくださったそうでありがとうございます。おかげで日増しに元気になっておりますのでご休心ください。読者(下記)を紹介します。(徳島・T)

編集部より 読者のご紹介に胸がわくわくします。心からありがとう。Kさん力強くご回復のごようす、全国の仲間もホット胸をなでおろしていることでしょう。

戦争に黙ってられない市民バレード 十二月九日、清瀬市(東京)に五〇名が結集して「子どもが女性を殺されています。アフガニスタンへの攻撃中止を。爆弾ではなく食料と医療支援を」と、標記集会がおこなわれました。人数、内容とも参加者から、「こんな清瀬市でよく市民集会とデモができたものだ」と成功の満足感が広がりました。これに甘んじることなく、二〇〇二年二月二日(土)午後六時三〇分から清瀬市内で「反戦の夕べ」をおこないます。(清瀬市・H)

編集部より 次への準備へ、一つ一つ布石を打っていらつしやる。今求められる私たちの運動方向そのもの。さらにひろげて大きくして。二月二日、出席したい。でも三つの行事で迷っています。

「冬の句会」 肌寒さを感じる今日この頃。句友が待ちに待った「冬の句会」を開催。今回は浅草界隈を探索し、江戸情緒を満喫しつつ、一句を皆がひねりだしそうろう。投句三―五句、選句は自分の句以外を天(三占)・地(二占)・人(一占)で選んでいたいただき、選句を終え、各自が選んだ句を発表し、得票が一番多い方を三代目宗匠として、次回の句会まで崇め奉りそうろう。(東京・龍念)

編集部より 風雅ですね。この情勢に。しかしこのくらいの余裕なければ運動つくれませんよ。書棚からほりかぶった「奥の細道」を取り出し参加の気分としようかな。時折「俳句歳時記」を開いて楽しんでる妻は初参加。仲見世の人波に吞まれてしまつて…と嘆きながらも、隅田川べりの公園で枝だけになった桜並木を散策し発句。「裸木や花の命をさずかりて」「山茶花や咲いて知りたる母の愛」「浅草寺雷門も日なたほこ」に点をいれてくれた! とはいやいでいました。

大繁盛の職業安定所 定年退職ではありませんが、三ヶ月前に二九年余り働いた職場を辞めました。現在失業中。千葉の職業安定所に通っています。本当にすごい人です。一日の認定者だけでも二百人を超えています。手続きも機能的ですぐ終わります。初めて職安に行った時、思ったのはある本の題名でした。「裸で狼の群のなかに」です。本当に緊張しました。何度かの認定の後、雇用保険が切れる時は、次の認定日の用紙がないので「これで終わり」の宣告がされます。残酷です。まだ仕事が決まっていないのに、「あなたはこれで終わりです」と言われるのですから (千葉・由)

編集部より 本誌にも「倒産」、「失業中」、「私の身内も」とのおたよりが寄せられることが本当に多くなりました。その一方、巨大企業の本社ビルが社会をへいげいしています。こんな会社ならない方がよいとの発想もソロソロ必要な時かもしれません。

向坂夫人いかがお過ごし 北海道は寒くなってきました。今、向坂先生、岩井さん、灰原大先輩のことを、国鉄闘争のゆくえを案じながら思い起こしています。ところで、ゆき夫人はお元気なんでしょうか。近況ご報告くだされば嬉しいのですが。(北海道・M)

編集部より 地方出張中、妻が鷺宮(東京・中野)にうかがいました。お電話したところ、お元気なお声で、急にお目にかかりたくなつたと。妻いわく。「九八歳になられるゆき夫人、毎朝家のまわりの落ち葉を二時間ほど掃除される。朝食おいしい。ご自分で買ひ物もされ、ご飯もつくつて。おいしいお茶とケーキをご馳走になって…。お部屋にはかわいいお花が生けてあつてね」。

## 紅梅の蒼の力深きより

早春、百花に先がけて咲く梅。モノトーンの枯れ庭に見つけた紅梅の蒼に心打たれた。

膨らんだ蒼は、今にも開くかと思わせる張り詰めた空気を放っている。それは、老木の幹を通つて、地中の深いところから湧き上がってきた力のように思えた。

(国労闘争団 田島 省三)